



東京女子医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻

博士前期／後期課程 【男女共学】

2025



本学の 建学精神



東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥（うんおう）を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく看護師育成の場として、1930年（昭和5年）に附属産婆看護婦養成所が開設され、1998年（平成10年度）には新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。





メッセージ



学長
丸 義朗

「学術と人格は進歩する医学の両輪」

このたび2019年4月1日付で学長に就任致しました。1900年に創立された歴史ある東京女子医科大学の建学の精神は、医学の蘊奥を究め、人格を陶冶して、社会に貢献する、です。ゲノム解析、AIの介入、疾患モデル動物学の進歩などによって、医学は目覚ましい発展の途上にあります。どのような時代がきても、その進歩した医学に応じることができなければ医療人としての天職を全うすることはできません。

これまで東京女子医科大学では、高度な学術を身につける医療人を育成することを目標に、優れた先人によって、丁寧で質の高い教育プログラムによる教育がなされてきました。しかし、学術だけ優れていても、高い教養をもつ人格者でなければ、多様性とスピードを特徴とする現代医療に立ち向かうことはできません。医学教育の質をさらに向上させる取り組みを実践するとともに、一方で人間形成を重視する教育をプログラムに盛り込んでいきます。医師や看護師という医療人を最初から意識して、模擬患者や患者さんを相手に医療人と患者さん間の人間関係を学ぶことはもとより、医療人を意識する前の段階で、上下関係など様々な人と接する時の垣根を積極的にまたいで、人と人との心を開いた関係を作ること、そして最終的には信頼の構築を、成果(アウトカム)としたいと考えております。

東京女子医科大学は日本で唯一の女子医科大学です。男性に比較して女性の方が医師として一定の指標では優れているという公衆衛生学的学術結果も公表されており、日本における女性医師の割合が約20%と他国のそれを大きく下回る現状では、東京女子医科大学は量的貢献をすでに行っています。女性医師は子育てなどのため36歳で就業率が一時的に低下します。様々なライフイベントに対して自らの手でキャリアデザインできるような学修、また女性の品位を身につける学修・風土を推進したいと考えています。

皆様と一緒に、働きやすい職場、学びやすい学校、各人が自分の力を発揮できる風土、このような大学環境を作って参ります。浅学非才の身ではありますが、精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

東京女子医科大学大学院看護学研究科は、
看護に関する理論と応用学を研究し、
その深奥をきわめて、文化の進展と社会に貢献できる人材を育成します。

アドミッションポリシー

社会の保健・医療・看護・福祉に対する人々の多様なニーズを認識し、これらのニーズに対応できる高度な看護実践能力、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々のQOLを高められるように社会を変革する能力を有する人々の育成を目指しています。入学者は性・年齢を問わず、また仕事を持つ社会人も受け入れています。

博士前期課程

- 1 看護学および看護実践への強い関心と問題意識を有している人
- 2 専門分野の基礎的知識ならびに実践力を有し、課題探求力、理論的思考力を有している人
- 3 看護専門職として看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有している人
- 4 豊かな感性と人間関係をはぐむ力を有し、他者と協調しながら主体的に行動できる人

博士後期課程

- 1 専門分野に関する旺盛な探究心と自立して研究に取り組む姿勢を有する人
- 2 幅広い学問分野への高い関心を有し、国際的視野および倫理的感性を備えている人
- 3 豊かな人間性を備え、看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する意欲の高い人

カリキュラムポリシー

博士前期課程

本学看護学研究科博士前期課程においては、看護の発展に貢献する研究を中心に、看護実践・教育・行政における指導者の育成および人々の健康生活に貢献しうる包括的、かつ高度な看護実践ができる看護専門職の育成をめざします。

博士前期課程では修士論文コースと実践看護コースの教育課程を設けております。

修士論文コースは、看護基礎科学、看護管理学、看護職生涯発達学と実践看護学Ⅰ～Ⅵの専攻分野から編成しています。学際的な立場から広く看護学を学ぶ基盤科目、専門領域における看護をさらに深める主分野専門科目の履修、および自己の研究課題を探究し修士論文を作成することができます。

実践看護コースには、基盤科目に加えて、高度実践看護師を目指す学生のために、日本看護系大学協議会に認定された高度実践看護師教育課程の科目(38単位)およびナース・プラクティショナー教育課程(46単位)を履修することができます。

また、ウーマンズヘルス領域では助産師国家試験の受験資格に必要な科目(28単位)を含む58単位以上の科目を履修することを課しております。

博士後期課程

博士後期課程の教育目的は、建学の精神にのっとり、看護学に関わる学際的な理論および実践を研究し、その深奥を極めて人々の健康に寄与すると共に、看護学を発展させ社会に貢献する卓越した人材を育成することです。この目的達成のため、看護基礎科学および実践看護学の2つの分野の課程を設けております。

共通選択科目および看護基礎科学、実践看護学の2分野にそれぞれの専門科目を配置しており、共通選択科目と専門科目から専攻に合わせて、計6単位以上の履修をすることができます。

自己の関心テーマに関して、研究計画から博士論文の作成、成果発表までを一貫性をもって自律して研究できる研究者を育成します。

ディプロマポリシー

博士前期課程

本学博士前期課程では所定の単位(30単位以上)を修め、修士論文または課題研究論文を提出し、最終試験において以下の能力が認められたものに、修士(看護学)の学位が授与されます。

- 1 修士論文コースでは、看護の専門領域に関して、質の高い高度な看護実践を開発する研究能力を有する。
- 2 実践看護コースでは、実践看護分野において、専門的で高度な看護実践能力および指導力を有する。
- 3 修士論文コース、実践看護コース、ともに保健医療・看護の場における課題に関して主体的に取り組み、科学的・理論的分析に基づき検討・提言する能力を有する。

博士後期課程

博士後期課程では、所定の単位(6単位以上)を修め学位論文の審査に合格し、最終試験において以下の能力が認められたものには博士(看護学)の学位が授与されます。

- 1 複雑な医療環境および看護実践の場で、人々に対する全人的、かつ包括的な看護を研究的に思考し、高いレベルで看護を探究できる卓越した能力を有する。
- 2 看護学の学問的深奥を究め、看護学をより発展させるために、豊かな学識を備え、自立して研究活動をする能力を有する。
- 3 国際的な視野にたって、看護を発展させる独自の看護を創造する能力を有する。

教育の理念・目的

博士前期課程

「質の高い高度な看護実践を可能にする研究者の育成」

人々の多様なヘルスニーズに応えるために、看護理論および諸科学の理論を駆使し、実践とのつながりを重視しながら、看護を学問的に探究することができる研究者の育成を行います。

「現場の変革者としての高度実践看護師の育成」

高度な専門知識と技術を有した専門看護師(CNS)は、21世紀の看護の質的向上を図るために重要な存在です。東京女子医科大学の先端高度医療の場や在宅、および各施設における看護実践を通して、主体的に看護の探求ができるような教育環境を整備し、高度実践看護師の育成を行います。本学の専門看護師教育課程には「精神看護」「老年看護」「小児看護」「クリティカルケア看護」分野、ナースプラクティショナー教育課程には「エンドオブライフケア学」があります。

「国際的な視野に立って研究する人材の育成」

国際感覚を身につけ、諸外国の教育および学生との共同研究などを通して看護を向上させ、国際的に活躍できる研究者および実践者の育成をはかります。

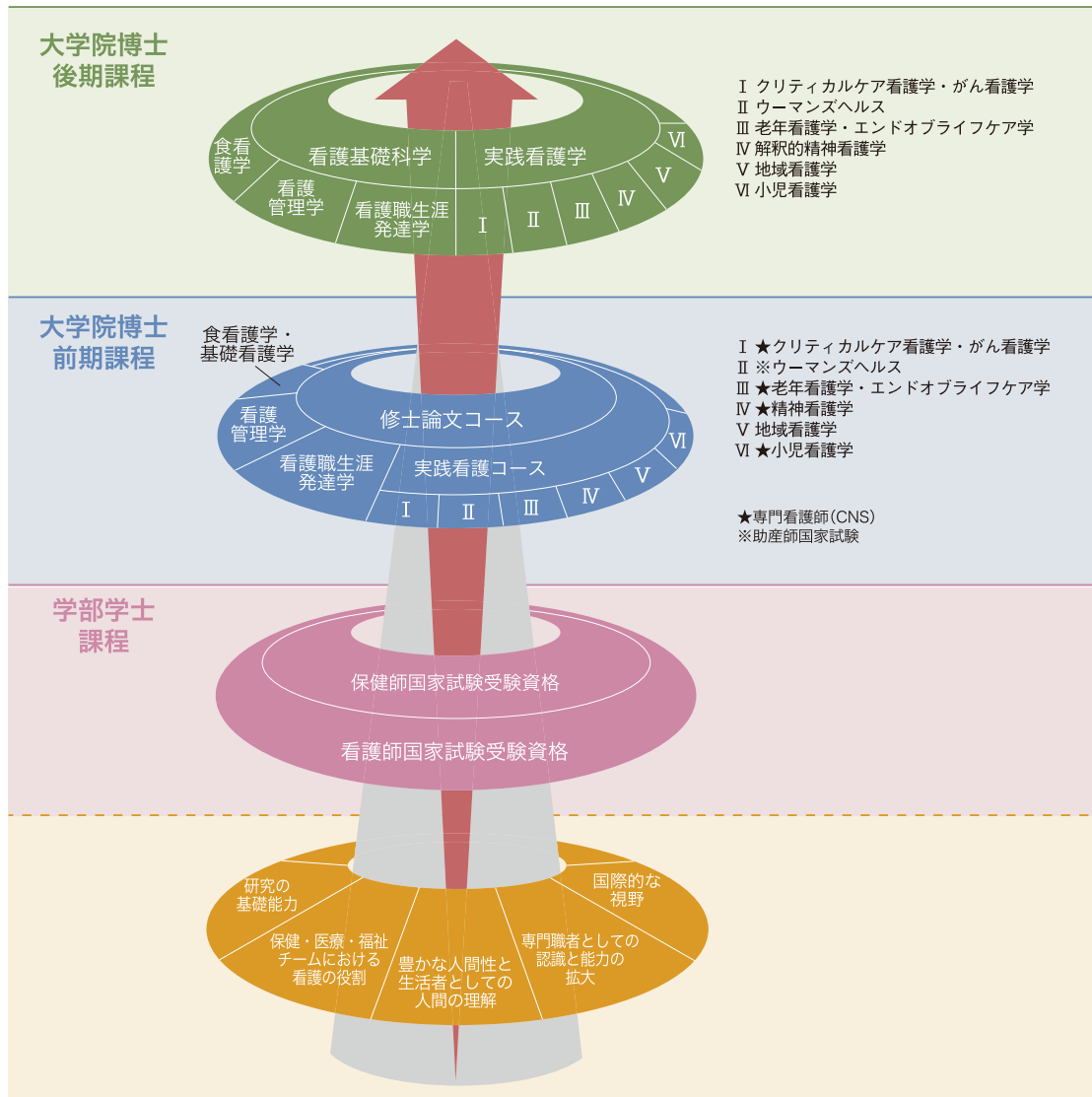
「学生の個別ニーズへの対応」

学生の主体性や自己教育力を重んじ、学生が有する個々の特性に柔軟に対応できる教育体制を整えています。また、学生の希望する領域での研究、看護実践が円滑に行われるように、高度医療の各専門分野との連携をはかり、対応します。

博士後期課程

- 建学の精神にのっとり、看護学に関する高度な理論および実践学を研究し、その深奥を究めて、人々の健康に寄与すると共に、看護学を発展させ社会に貢献する卓越した人材を育成することを目的としています。
- 看護基礎科学、実践看護学における、人間理解や倫理的課題、研究手法に関する共通科目が準備され高いレベルで看護を探究する環境を整えています。

■ 学部学士課程と大学院博士(前期・後期)課程との関係図



博士前期課程

※修士論文コースと実践看護コースを設けています。

主として、研究者または専門看護師として活躍できる人材育成を目指します。

CNS資格取得授業科目開設

専門看護師(Certified Nurse Specialist)は高い専門の看護実践能力を持っている看護師のことで、日本看護協会が認めた看護職者です。専門看護師認定試験を受けるには看護系大学院博士前期課程(修士課程)修了者で日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位(38単位)を取得していること、実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。本学は「クリティカルケア看護学」「老年看護学」「精神看護学」「小児看護学」分野においてCNS資格取得授業科目を開設しています。

NP資格取得授業科目開設

ナースプラクティショナーは一定の範囲で自律的に治療的もしくは予防的介入を行い、卓越した直接ケアを行うことができる看護師のことで、日本看護協会が認めた看護職者です。ナースプラクティショナー資格認定試験を受けるには看護系大学大学院博士前期課程(修士課程)修了者で日本看護系大学協議会が定めるナースプラクティショナー教育課程基準の所定の単位(46単位)を取得していること、看護師としての実務経験が5年以上あることが必要です。本学は「老年看護学・エンドオブライフケア学領域」においてNP資格取得授業科目を開設しています。

大学院科目等履修制度

この制度は社会人などに対し学習機会の拡大、看護職の生涯学習・キャリアアップ支援、さらに、大学院博士前期課程(修士課程)の修了生に対して日本看護協会の認定する専門看護師の資格上、さらに履修する科目が必要な場合にも対応できるように設けられています。この制度で博士前期課程に開設されている特定の授業科目を履修して、一定の単位を修得することができます。なお、修得した単位は、本学大学院看護学研究科博士前期課程に入学した場合、10単位を超えない範囲で修得した単位とみなすこともあります。

専門看護師合格者数

クリティカルケア看護学	20名
(がん看護学)	20名
老年看護学	8名
精神看護学	32名
小児看護学	12名

※本学調べ(2021年3月までの修了生を集計)

ナースプラクティショナー認定審査合格者

老年看護学・エンドオブライフケア領域	3名
--------------------	----

助産師国家試験受験資格 取得科目の開設

近年、生殖医療の高度化などに伴い、周産期を取り巻く環境は多様化しております。しかし、女性を中心にしたケアを行うためには、助産師のエビデンスに基づく診断や技術の習得と意思決定が重要です。本学では平成19年度より助産師教育を大学院に移行し、女性医療人を育む教育環境の中で実践と研究を連携させ、自ら学びを深める姿勢を培う助産師のスペシャリストを育成しています。

助産師国家試験合格者 計59名

2022年度助産師国家試験合格率 100%

患者様の想いに寄り添う看護



博士前期課程
実践看護学II
ウーマンズヘルス領域
(実践看護コース)修了

井上 真由さん

大学院では座学や実習での実践、研究を通して様々な事を幅広く学びました。座学では最先端の医療やケア、看護理論、助産学などについて、ディスカッションや発表、講義を通して学びました。実習は、大学病院や助産院に行き、座学での知識や実践を通して具体的に体験し理解することができました。研究では、様々な研究結果を知ることや、根拠のある看護を学びました。大学院では知識の習得だけでなく、学んだ知識や理論を抽象的なものから具体的に捉え直し、個別性のある看護に繋げる重要さ学ぶことができました。

病院にはハイリスクな患者様が多く入院しているため、先輩助産師や医師のフォローを受けながら患者様にとって必要なケアを行っています。ハイリスクな患者様にケアを行う際に、身体的側面にのみ着目しやすいますが、患者様がどう受け止めて、何を感じ考えているのか、患者様を全人的に知るよう心掛けています。全人的に患者様を捉えることで、治療が中心ではなく、患者様中心にしてケアを実施することができると考えています。

博士前期課程 授業科目

※助産選択科目については、実践看護学Ⅱ(ウーマンズヘルス)分野の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者はすべて履修すること。

☆日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了を希望する者は自由選択科目をすべて履修すること。

●日本看護系大学協議会ナースプラクティショナー教育課程(48単位)修了を希望する者は自由選択科目をすべて履修すること。

共通必修科目授業名	
看護理論	看護研究
看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について理解を深め、また、理論構築の基本的なアプローチについて学ぶ。	専門技術の向上や開発を図るために、実践の場における研究活動を行うに必要な研究方法について、分野を越えた共通する知識を教授する。
共通選択科目授業名	
看護倫理	看護教育論
看護活動場面における倫理的諸問題に対し、解決に向けて調整を行うための幾つかの考えについて論じる。	看護学の教育の特徴から看護教育のあり方を検討する。また、看護学教育を生涯教育の観点からとらえ、総合的な教育として考察する。
看護政策論	コンサルテーション論
超高齢社会における健康に関する課題や医療・看護ニーズとともに、それを支えてきた日本の医療制度・政策を理解し、刻々と変わりゆく社会において看護が果たすべき役割や方向性、自身がつくりたい日本や世界の看護を含む未来について考え、議論する。	看護職を含むケア提供者に対して実践的な問題を解決する援助のために、コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントとしての役割機能、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて学習する。また、コンサルテーションの実践について理論的・実践的分析をふまえながら学習する。
看護管理論	家族論
看護実践・看護管理・看護研究の連携の重要性を認識し、保健医療福祉に携わる人々との調整を行う看護管理に携わる看護職と協力して高度実践看護師として変革につながる戦略的思考について学修を深める。	看護職者にとって「家族」とは、患者支援の鍵を握る重要な関与者であるとともに、家族そのものが看護の対象となりうるという二重の意味を持っています。また、看護職者を含む全ての人々が、家族あるいは家族に類似した小規模社会集団のなかで、人生をスタートさせます。つまり、誰もが、「家族」の当事者であると言えます。この授業では、自分の経験に過度にとらわれることなく、「家族」および「家族問題」を理解するための、さまざまな視点を学修する。
社会学	人間学
臨床の場でのコミュニケーションにテーマを絞る。各種コミュニケーション・アプローチの理論と実際を学習するとともに、コミュニケーションを切り口にして今日の医療現場での人間関係や集団・組織についても考えて行く。	医療・看護・福祉領域が、ホリスティックな(総合的で全体的な)人間観を要請するようになり、人間をめぐる基本的問題、すなわち人間とは何か、人間はどのように理解されるべきか、人間の抱える苦悩とは何か、人間らしい看護のあり方とは何か、生と死をめぐる諸問題への正しい答えはあるのか等、具体的な問いに改めて取り組む「人間学」の試みが期待されている。この講義では、「ナラティブ・アプローチ」による人間の理解について修得する。
保健統計学	臨床心理学
看護基礎課程において保健医療統計学の基礎知識としての統計的手法を、一通り履修している。ここでは、この知識を基に、個々の保健現象の解明に応用できる能力を養うとともに、研究成果を科学的にデータをもとに理論づけることができる能力を養うことを目的とする。	臨床心理学を広義に捉え、看護実践に役立つ諸理論および方法論を講義する。まず、アセスメントに関して質問紙(心理尺度)の作成方法について解説し、その応用例として高齢や病者のQOLを規定する心理・社会的諸要因の研究を取り上げ、臨床心理学の看護への貢献について考察する。また、カウンセリングの基礎理論と諸技法を習得させ、看護実践への応用を目指す。さらに、臨床心理的地域援助、即ちコミュニティ心理学の基本的考え方を、癌患者のサポート・グループに関する介入研究やインフォームド・コンセントに関する医療倫理学的研究を例として解説する。
研究方法 生体・生理学的研究 臨床医学的研究	先端医療
医療場面における研究は、治療効果の追求であると同時に原因追求および人間の生体の変化を丁寧に観察することから出発する。それらを方法論として基盤に位置付け、看護研究の方法論に応用できるように学習する。	近年、工学的手法やテクノロジーを医学に持ち込み、従来できなかった先端医療が次々に実現されることとなった。本科目は幅広いテクノロジーと医学の融合によって誕生する先端医療について解説する。特に、再生医療の発展はめざましく、薬物治療とは異なる効果が期待でき、この治療法について移植法との相違について明確にしなから現状と将来について展望する。また遺伝子診断や画像監視下手術、ロボット手術についても最近の進歩を解説し、今後、大きく変わる先端医療全体の流れと、診断、治療と手術の将来について講義する。
国際看護コミュニケーション	
国際学会における英語による口頭発表の方法を理解し、その準備をする。外国と日本の社会や文化を相対的にとらえて認識し(思考・判断)、同時に文化発信の能力並びに高いコミュニケーション能力(技能・表現)を備えた、国際社会において看護専門家として主体的かつ積極的に活躍する(態度・志向性)ことができるように学習を進める。	
自由選択科目授業名	
臨床薬理学☆	フィジカルアセスメント☆
対象者の健康問題に応じた薬物治療を薬力学的、薬物動態学的見地から理解した上で、専門看護師として、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療や症状緩和のケアの提供に参画するための知識、技術を修得する。	複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、日常生活のアセスメントを含んだ臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。
病態生理学☆	
身体が恒常性を維持する機能の基礎知識を理解した上で、症例をもとに異常をきたす原因、経過、主な症状、治療・処置について学び、今後専門看護師に求められる対象の病態生理学的変化を解釈、判断、実践するために必要な知識と技術について教授する。	

博士前期課程

看護基礎科学(食看護学・基礎看護学)

修士論文コース

学びの特長

基礎看護学は、看護の実践や教育の根底をなしている本質的な原理に立ち戻り、「看護・看護教育とは何か」を問い直すことが基本的な立ち位置です。その上で、各自が関心を寄せる様々な現象を取り上げ、それらが意味するものをホリスティックに理解する力が養われることを目指します。

修士論文のテーマ

- 看護師が遷延性意識障害患者を理解するまでのプロセス
- 一般病棟に勤務する看護師のターミナルケアにおけるとまどいに関する研究
- 食への援助における看護師の思考プロセスに関する研究
- 経鼻経管栄養法をうける患者が看護に期待する食への援助に関する研究
- 入院患者が受け止める食生活への援助に関する研究

見城 道子 教授

【プロフィール】 ナイチンゲールの看護の本質を追究して、急性期病棟や外来看護、訪問看護を経験して、多くの患者さんやご家族との出会いがあり、全人的に患者を理解し、ヒューマンズムに根差した看護を、複雑な臨床現場においても可能にする実践力に興味を持ちました。そして、看護基礎教育の重要性を実感し、教育の現場に移りました。急速に変化する医療現場における看護師の実践をケアリングの視点から検討して教育や研究活動をしています。また、エビデンスのある看護技術の普及に向けた研究も取り組みを進めます。



授業科目名

食看護学特論Ⅰ	食看護学特論Ⅱ
人間生活の営みの基本である「食」に焦点をあて、食をめぐる諸学問の概観をし、食生態学的視点で食を問う。また、多様な暮らし、健康状態の人にとってのQOLを高める食とはについて考え、食の援助の歴史の変遷を通して、今日の社会が抱える食の問題、その中で今後の食を中心とした生活への援助における看護が果たす役割について、展望する。	ヘルスプロモーションの変遷と今日の活動の実態、健康政策や健康教育のための行動学的、食生態学的アプローチについて探求する。食生活を中心とした家族関係と教育効果については、交流分析を用い、実践的レベルにて探求する。
食看護学特論Ⅲ	食看護学特論Ⅳ
食看護学における食看護アプローチの科学的実践方法について多角的に探求する能力を養う。	発展途上国および先進国での食生活の現状の比較検討から、今後の食生活援助のあり方および食看護の方向性について検討する。
食看護学演習Ⅰ	食看護学演習Ⅱ
高度医療の病院の実状にふれ、また、特定の地域に生活する人々の食生活の実状を参加観察し、食生活に関する問題把握および食看護への具体的アプローチについて探求する能力を養う。	食看護ケアの具体的な援助とその効果を実証し、人々の健康の保持増進に役立てることが出来るように、創造的・研究的に発展させ、提言できる能力を培う。
食看護学特別研究	
“食は人をつくる”という理想を貫き尊重しつつ、現代の食生活の問題点の様相をあらゆる角度からとらえ、浮き彫りにし、これらの課題に看護者としてどのように対処していくのか、その方向性を探求し、論文とする。また、食への具体的な援助を通して人々の生活の質(QOL)の向上に寄与するための、食看護学研究の推進を図る。	

授業科目名

基礎看護学特論Ⅰ	基礎看護学特論Ⅱ
看護実践を成立させる主要概念について、ナイチンゲール看護論を中心とした看護論の視点から捉えなおし、看護の原理を再検討する。	看護実践を成立させる主要な原理(生命観・身体観・健康・病気・ケア・省察の実践・実践倫理)を取り上げ、多角的な視点から看護実践を検討する。
基礎看護学特論Ⅲ	基礎看護学特論Ⅳ
看護技術の分析を通して、看護技術の本質・特質・構造への理解を深め、看護技術の意味や価値を再考する。さらに、看護技術研究およびEBNの確立と普及について考察する。	看護技術教育における指導課程に焦点を当てて、指導計画、実施、評価に関する理論を学修し、様々な対象への効果的な看護技術教育のあり方を探求する。
基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学演習Ⅱ
基礎看護学領域の研究課題や研究方法を具体化するために、関心テーマに関する文献検討を踏まえて、看護の場で現象を観察し、その場で起きている現象を探求する能力を高め、看護の場や現象への理解を深める。	基礎看護学領域の研究論文の文献検討により、研究動向と理論的背景を知り、研究方法(観察研究、介入研究、質的研究等)、研究倫理について学修する。
基礎看護学特別研究	
基礎看護学特論及び演習での学びを基に、研究の問いを明確にし、方法を精練し、一連の研究過程を通して、基礎看護学領域の教育研究の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。	

看護管理学

修士論文コース

学びの特長

看護サービスを受ける患者やその家族により良いアウトカムをもたらすには、看護・医療・福祉に従事する人々がいきいきと働き、組織・チームとして大きな力を発揮できる環境が必要です。看護管理学領域では、その環境を整えるアプローチとして「看護管理の知」を研究します。医療施設から地域・在宅まで、すべての臨床現場でのマネジメントはもちろん、安全で質の高い看護サービスを提供するための社会のシステムや制度・政策まで、国内外を問わずさまざまな視点で「臨床現場をうまくまわす方法」を探求します。

駒形 朋子 准教授

【プロフィール】 私は開発途上国での看護活動をきっかけにグローバルヘルス研究の道に踏み込み、人々の日常生活行動と健康に関する研究を行ってきました。その後看護系大学で国際・災害看護の教育研究、また医療政策の学びと政策提言活動を経て、医療・看護制度、政策にも強い興味を持つようになり、現在は日本と世界の看護労働力の課題、看護業務のロボットとのワークシェアの研究に力を入れています。世界中で長寿化、高齢化が進む中、だれもがその人らしい健康を実現できるハッピーな社会づくりに貢献したいと考えています。



授業科目名

看護管理学特論Ⅰ 看護管理学を用いる場となる現代的なヘルスケアシステムの基盤となる基本的な概念枠組みと主要理論を学ぶ。	看護管理学特論Ⅱ 日本における看護管理、看護制度・政策を多角的に取り上げ、看護と社会システムの関係について探索する。組織と其中で仕事をする人間の行動についての理論(組織論・経営論)を活用しながら分析できる能力を身につけ、人を管理する上で学ぶべき知識やパースペクティブを涵養する。
看護管理学特論Ⅲ 保健医療福祉における制度の仕組みと看護実践の場との関係について焦点を当てて考え、戦略的看護サービスを実践するための看護管理者の役割と課題、将来展望について探求する。	看護管理学演習Ⅰ 看護管理の先駆的な実践について、既習の理論を活用しながら、その現象を分析できる能力を養う。自らが選択した臨床疑問を看護管理の研究課題へと導き、研究計画立案へとつなげる。
看護管理学演習Ⅱ 看護管理学関連分野の国内外の先行研究の文献検討を通して、研究領域、研究アプローチとその理論的背景、また研究方法について学ぶ(観察研究、介入研究、質的研究、アクションリサーチ等)。	看護管理学特別研究 看護管理学特論および演習で学んだことに基に、看護管理学領域における自己の問題意識を研究的問いを立て、方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを踏むことを通して、臨床実践や看護管理教育に貢献できる研究能力の基礎を養う。



博士前期課程

看護職生涯発達学

修士論文コース

学びの特長

看護職生涯発達学は、看護学生を含む看護職が生涯を通して、成長・発達し続けることを支援するための教育・研究・実践を行う領域です。本領域には3つの要素が含まれます。すなわち、看護職(看護学生を含む)、生涯を通じた成長・発達に関わる要素、能力・キャリア(生き方)・倫理に関する要素です。合意形成理論などを活用し、看護職の能力向上にむけての研究アプローチと教育プログラムの開発を目指します。

修士論文のテーマ

- 一般病棟に勤務する看護師への気管吸引を通して最善を志向し実施するプロセス
- 主任看護師が中間管理者としての役割を獲得していくプロセス
- 臨床現場の教育活動から得た臨床看護者の教育に対する認識が変わるプロセス

吉武 久美子 教授

【プロフィール】助産師の臨床経験を経て、倫理学、哲学、合意形成学を専門として、看護職に向けての合意形成理論を取り入れた倫理研修を実践してきました。研究では「医療現場の意思決定と合意形成」をテーマに、日本の文化に根差した倫理的合意形成に含まれる概念の創出とともに、看護職に求められるファシリテーション技術および教育プログラムの開発を理論と実践の両方から取り組んでいます。



授業科目名

看護職生涯発達学特論Ⅰ	看護職生涯発達学特論Ⅱ
医療における合意形成理論を理解した上で、看護職生涯発達学の視点から、これからの看護職に求められる役割と能力について考えることができる。看護職の多様な立場から、合意形成理論を活用した理論および概念の活用方法について学ぶ。	多様な看護職に向けたさまざまな教育についての現状と課題を把握した上で、成人学習、キャリア発達等の既存の理論を活用し、要請される教育の内容と方法について考える。看護職の成長を促すための支援について学修する。
看護職生涯発達学特論Ⅲ	看護職生涯発達学演習Ⅰ
医療の合意形成理論を土台とした方法論(合意形成技術)の基礎について学修した上で、看護職に求められるファシリテータ能力の内容とその育成について探求する。看護職生涯発達学の視点から看護職に求められる合意形成理論の活用について学修する。	看護職生涯発達学・合意形成学・看護倫理などに関して、臨床疑問から研究の問いの立て方、および問いに対する分析する能力を養う。学生が自ら選択した研究疑問にしたがって、研究計画立案までに必要な能力を養う。
看護職生涯発達学演習Ⅱ	看護職生涯発達学特別研究
看護職生涯発達学および、看護倫理、合意形成に関する国内外の先行研究の文献検討を通して、研究アプローチとその理論的背景、研究方法について学修する。	看護職生涯発達学特論および演習で学修した知見から特定のテーマを選択し、その研究過程を通して看護職生涯発達学に寄与する基礎的研究能力を養う。



実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学)

修士論文コース

CNS 実践看護コース

学びの特長

本領域では、生命の危機状態にある人に対し、速やかに恒常性の回復・維持を図り、その人らしい生活の再構築を図るべく、未来を見据えた高度な実践能力、教育、研究を探究します。慢性疾患の急性増悪を繰り返す人や家族も対象であり、療養の場は救命救急・集中治療室のみならず、一般病棟・外来、在宅まで及びます。授業や実習では、臨床・教育の現場で精力的に活躍する多才な講師陣のもとで主体性を発揮し、多目的かつ全人的な視点、柔軟なこころを養います。

町田 貴絵 教授

【プロフィール】クリティカルケア看護の卓越した実践者（急性・重症患者看護専門看護師）、あるいは教育・研究者を志す方に対し、危機的状態にある対象の顕在、潜在する問題に的確に対応し解決できる人材を養成します。また、研究では、効果的なチーム医療を推進するための看護師の役割や災害時のケアのあり方についても注目しています。



修士論文のテーマ

- 脳死ドナーの看護を行う看護師の体験
- 周手術期における患者の家族がもつニードの変化
- 心臓手術を受けた患者の回復意欲を高める要因

課題研究論文のテーマ

- ICU入室患者におけるリハビリテーションの現状と課題に関する文献検討
- 先天性心疾患手術後早期退院における母親の療養生活適応プロセス
- 東日本大震災で災害急性期救援活動をした看護師の主観的経験

授業科目名

クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
クリティカルケア期にある患者および家族が体験する身体的および心理的变化を理解し、強度のストレス状況下における心身の変化および家族関係の変化についてアセスメントし、回復を促進する理論に基づいた専門的看護ケアを行うための基本的知識を学ぶ。	クリティカル期における患者の呼吸、循環、代謝の変化に示された病態生理を学習し、看護介入のための基礎的知識を学ぶ。
クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカルケア看護学特論Ⅳ
集中治療を受けている患者に対する治療内容を理解し、専門看護師として患者・家族を中心とした看護ケアを行うための基礎的知識を学ぶ。	クリティカルケア期における患者の全人的な苦痛を理解し、人間としての尊厳を保持し、チームによる心理的・社会的支援を行うための薬理的・非薬理的緩和の方法および看護ケアについて学ぶ。
クリティカルケア看護学特論Ⅴ	クリティカルケア看護学演習Ⅰ
先端医療を受ける患者およびその家族の治療の選択と自由の問題について、価値観の相違による葛藤状況を適切に認識し、患者および家族の人権擁護の立場で倫理的問題解決ができるための理論的基礎を学ぶ。	クリティカルケア期における生理学的変化を理解し、フィジカルアセスメントの方法を学び、臓器の機能不全がある患者の状態および生活行動、機能回復の状況を事例を通してアセスメントする。
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ☆
危機的状況下および拘束状態にある心身統一体としての患者およびその家族に対し、ケアとキュアを融合した看護介入の方法を学ぶ。	救命救急またはICUにおいて様々な患者に対応できるように必要な医学・検査・処置に関する知識を深め、生命の危機にある患者とその家族に対する身体的・心理的状況を把握し、専門看護師として実践する力を養う。
クリティカルケア看護学実習Ⅰ☆	クリティカルケア看護学実習Ⅱ
急性・重症患者看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践】の概要を、実習を通して把握する。	クリティカルケア看護学領域における専門看護師としての看護活動を展開するために必要な能力を習得する。
クリティカルケア看護学実習Ⅲ☆	
自身が今後専門として深めていきたい分野の医療チームにおいて、サブスペシャリティーを深め、急性・重症患者看護専門看護師が果たすべき役割を理解・実践する。	

博士前期課程

実践看護学Ⅰ (がん看護学)

修士論文コース

学びの特長

様々な治療を受けるがん患者と家族に対する看護、がんサバイバーへの看護、緩和ケア、エンド・オブ・ライフケア、がん医療体制などについて、実践、教育、研究を追究します。現代社会におけるがん医療の課題から臨床における看護の質向上まで多角的な見解から課題について探索します。高度実践能力、コンサルテーション、倫理調整、チーム医療を推進する調整力などCNSとしての能力を育成します。

町田 貴絵 教授

【プロフィール】がんや治療によるストレス・危機状況にある患者および家族を看護する理論の探究、高度がん看護実践を自律して行える人材育成をめざしています。また、がん看護・緩和ケアにおいて不可欠なチーム医療の中心的役割を担う看護師の人材育成の探求に取り組んでいます。



修士論文のテーマ

- 末期心不全患者の症状緩和におけるオピオイド使用に影響する医療者側の関連要因
- 転移性脳腫瘍によりガンナイフ治療を受けた患者の体験
- 再発した造血器がん患者にとっての治療選択と治療継続の意味

課題研究論文のテーマ

- がん患者の症状マネジメントにおける自己効力感を高めるケアの効果—文献的考察—
- 終末期がん患者の体位変換を実施できない理由の文献検討
- 終末期がん患者の「自分らしさ」に関する研究の内容分析
- 性機能障害を抱える男性がん患者の経験に関する文献学的レビュー

授業科目名

授業科目名	
がん看護学特論Ⅰ	がん看護学特論Ⅱ
専門的ながん看護の基盤となる基礎的概念と主要理論、ならびにその活用について探求する。	がんに関する病態生理学および診断・治療に関する基礎的知識を学び、がん看護に関連した専門的知識を探求する。
がん看護学特論Ⅲ	がん看護学特論Ⅳ
がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるよう看護援助の方法を修得する。診断、治療の原理と最新事情を学び、それに伴う患者や家族の反応に対処できるように身体管理・看護ケアの概要を修得する。	緩和ケアの歴史およびわが国の緩和ケアに関する医療システムについて理解する。がんがもたらす苦痛症状をマネジメントする上で必要な医学的知識を習得し、それらの苦痛症状が患者の身体面、心理面、社会面、スピリチュアル面に及ぼす影響を理解するとともに、症状マネジメントに必要な看護援助を探求する。さらに、緩和ケアにおける倫理的問題について考察する。
がん看護学特論Ⅴ	がん看護学演習Ⅰ
がんおよびがん再発の予防・早期発見をめざし、知識、情報、技術を統合し、自己検診や生活の調整、管理ができるような支援・教育方法のため知識・技術を修得する。社会に対するがん予防・早期発見のための啓発のため知識・技術を修得する。さらに治療選択における意思決定の支援のための知識、技術を修得する。	がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対応を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要な看護について学ぶ。セルフケア能力向上のための方略について探求する。
がん看護学演習Ⅱ	がん看護学演習Ⅲ☆
がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なケアとケアを統合して提供する能力を修得する。薬物療法、理学療法的介入、心理的支援等包括的な介入についてリソースを活用し展開する能力を修得する。End of Life Careや家族のグリーフワークについて知識と技術を習得する。	がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛に関する専門的知識を深め、エビデンスに基づく確かな臨床判断を行うことができる。対象者のQOLの維持・向上に向け看護実践に必要なアセスメント・援助技法を修得する。
がん看護学実習Ⅰ	がん看護学実習Ⅱ
がんの診断・治療に関わる臨床場面(診療や症例・退院調整カンファレンス等)を通して、がん患者の療養管理をするために必要な能力を習得する。	がん看護専門看護師が活動している場での主体的な見学を通して、がん看護専門看護師の役割・機能を理解する。さらに、役割・機能およびその発揮に必要な知識・技術・態度について学ぶ。
がん看護学実習Ⅲ☆	がん看護学実習Ⅳ☆
専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、がん患者を直接的に援助する実習を行う。	がん看護専門看護師に必要とされる「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」の役割の基礎を果たせるように実践を通して習得し、自己の課題を明確にする。また、他職種とのチーム医療の中で専門看護師の役割開発や、医療チームのあり方について学ぶ。
がん看護学課題研究	がん看護学特別研究
講義、演習、実習を通して、研究的視点からがん看護におけるテーマを見出し、科学的な過程を踏んで実践に寄与する研究を行う。	がん看護学特論および演習で得た知見をもとに、がん看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通して、がん看護実践やがん看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。

実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)

- 修士論文コース
- 実践看護コース
- 助産師 助産選択科目

学びの特長

当領域では、女性のライフステージの各段階における健康問題を探究し、その課題解決に向けた研究的アプローチを学ぶところです。発展途上国における援助活動等の立案も行い、多面的な学習を行っております。さらに、助産師選択課程においては、周産期の女性と胎児・新生児のwell-beingおよび成長・発達を診断するために必要な基礎をEvidence-based Practiceの知識を活かして学び、健康問題への基礎的能力を修得するように少人数学習を行っております。ウーマンズヘルスに関心がある方、または、専門性の高い助産師を志す方は是非、私たちと一緒に学びましょう。

小川 久貴子 教授



【プロフィール】 私のライフワークの研究テーマは、「10代妊婦および若年母」です。臨床上、未受診や学業中断などの問題を抱えながら、無事に出産し、その後の育児期において女性が将来を見据えながら主体的に過ごせるように、研究と実践を結びつけながら支援を続けたいと思います。世の中のデータや政策は、男性に基づくものがまだ多い現状です。性差を特化しながら、女性の一生の健康を支援するウーマンズヘルスを、多方面から探究していきたいと思っています。

修士論文のテーマ

- 経産分娩後の初回歩行における助産師の判断と関連要因の検討
- ハイリスク産婦への豊かな出産のありかた
 - 豊かな出産にむけた
 - 周産期母子医療センター産科部長の思考の横相一
- 羊水感染に影響を及ぼす助産技術の検証
- 周産期女性と助産師の妊娠、出産、育児に対するイメージ

課題研究論文のテーマ

- 若年母に対する社会的イメージ
 - 新聞記事の内容分析を通して—
- 日本の妊娠している就労女性に関する研究動向
- 中学校教員による性教育の現状に関する文献検討
- 口唇口蓋裂児をもつ親の受容に関する文献検討
- 開業助産師の捉えるお産
- 双子の親が育児を通して抱く思い
- 助産師の無痛分娩に対する思いに関する研究
- 日本の妊娠している就労女性に関する研究の動向
- NICU入院により母子分離となった褥婦の
 - アセスメント
- 母親が父親に望む子育て支援に関する文献検討

授業科目名

ウーマンズヘルス 特論Ⅰ	ウーマンズヘルス 特論Ⅱ
出生前の発生・生理の状態から始まり、出生後はライフステージ各段階にある女性特有のホルモンを中心とした身体の変化と精神の変化やその対応策、なりやすい病気の予防などについて、データに基づいて女性のライフステージ各段階のヘルスクエアについての基礎を修得する。	世界的視野から女性のヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、ジェンダーの視点から女性特有の健康問題を探る。女性への暴力事象については、ジェンダーの視点から問題分析し、性暴力被害者へのケア能力の基礎を修得する。
ウーマンズヘルス 特論Ⅲ	ウーマンズヘルス 特論Ⅳ
女性のライフサイクルの各段階で味わう経験の諸相を学び、女性という対象の生き方・環境・健康問題について探求し、女性を対象にした看護介入を行うための技法に関する基礎を修得する。	国内外のウーマンズヘルスについて理解を深めるとともに発展途上国での援助活動等へ貢献できる基礎的能力を修得する。
ウーマンズヘルス 演習Ⅰ	ウーマンズヘルス 演習Ⅱ
女性看護学領域の研究の動向(国内・外)と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題をみだし、研究的アプローチを修得する。	女性の生涯の健康を視野に入れ、性と生殖に関する健康教育援助技術を検証し、科学的根拠に基づくよりよい専門的な援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。さらに女性の意思や希望を最大限に尊重した支援を実施する能力を修得する。
ウーマンズヘルス 実習	ウーマンズヘルス 課題研究
妊婦・産婦・褥婦・新生児に関する水準の高い助産診断・技術の実践を行う。さらにハイリスク事例のケアを実践する。また実践者に必要な役割としての教育・相談・調整能力を培い、さらに地域における助産所のケアの構築について、医療連携を踏まえて実践する能力を修得する。	特論及び演習で学び得た知識と技術を基に、直接的看護介入や助産診断技術に関する研究テーマを導き出し、一連の研究プロセスを通じた、専門的看護・助産援助の質の向上に寄与する臨床研究能力を養う。
ウーマンズヘルス 特別研究	
特論及び演習で学び得た知識を基に、ウーマンズヘルス領域における各自のテーマを導き出し、一連の研究プロセスを通してウーマンズヘルスに寄与する基礎的研究能力を養う。	

助産選択科目

助産学特論Ⅰ (基礎助産学) ※	助産学特論Ⅱ (助産診断・技術学) ※
助産学の基礎となる概念および理論をふまえ、周産期の女性と胎児・新生児のwell-beingおよび成長・発達を診断するために必要な解剖・生理学の基礎を学ぶ。さらに性と生殖に関する基礎的知識・健康問題に関する基礎的能力を修得する。	助産過程の展開に必要な診断の技法及び助産実践に必要な基本的な技術を学ぶ。さらに、性と生殖の健康問題について相談・教育・援助活動ができる基礎的能力を修得する。
助産学特論Ⅲ (地域母子保健) ※	助産学特論Ⅳ (助産管理) ※
地域の母子保健を推進するための基本的な理解と社会資源の活用や保健・医療・福祉機関との調整ができる能力を修得する。	専門職者としての助産所管理・運営能力や、施設・地域でのリーダーシップが発揮できるように、助産マネジメントの理論や知識を修得する。
助産学演習Ⅰ (基礎助産学) ※	助産学演習Ⅱ (助産診断・技術学) ※
助産師の機能と役割を理解し母子保健活動に必要な、生命倫理、助産の変遷、母子保健と諸制度を学ぶとともに母子の健康に影響を及ぼす環境因子、性と生殖に関連する疾患・異常や妊娠・分娩・産褥・新生児の異常についての基礎的能力を修得する。	助産学領域で実践されている特定の援助技術について、従来の研究成果を比較分析し、助産についてのエビデンスを検討する。さらに、周産期の女性と胎児・新生児のwell-being、分娩開始および進行の診断方法や分娩介助技術を学び、事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。さらに、実習終了後に体験した事例の援助技術を検証し、よりよい助産援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。
助産学実習 ※	
Evidence-based Practice (EBP)の知識を生かして、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児のケアに必要な診断を行い健康教育や分娩介助を実践する。	

博士前期課程

実践看護学Ⅲ (老年看護学)

修士論文コース

CNS 実践看護コース

学びの特長

未来の地域社会にむけて我が国の生活文化に即した看護を探究する老年看護学に加えて、エンドオブライフケアというより広い視野で専門分野や実践の場を領域横断的に考え地域社会におけるIntegrated Care Modelの実現への貢献をめざしていきます。特にCNS実践看護コースでは、生活と医療を統合する看護実践を基盤に高齢者、及び共に年を重ねる一人ひとりが「その人らしく生きる」ことを支えるために専門看護師として必要な理論、実践、教育、研究方法を学修します。ともに学ぶ仲間とともに主体的な学習により最善で最適な看護実践EBN (Evidence Based Nursing) を創出していきます。

修士論文のテーマ

- 配偶者と死別したひとり暮らし男性高齢者の食を通じた交流の意味
- 認知症高齢者が一人暮らしを継続するための支援のありよう
- ケアスタッフとの相互作用がもたらす行動障害のある認知症高齢者の変化
- 介護福祉施設における高齢者の車いす座位姿勢と下肢浮腫との関連
- 高齢失語症者とともに生活する家族の知恵の形成プロセス

課題研究論文のテーマ

- 高齢心不全患者のアドバンス・ケア・プランニングに関連する看護実践の文献検討
- 言語的コミュニケーションが困難な認知症者の思いを知る支援
- 脳卒中により胃瘻造設を行った高齢者の経口摂取を可能とする食支援に関する文献検討
- 多職種による薬剤等の再検討により経口摂取継続が可能になった認知症患者:症例報告

坂東美知代 准教授

【プロフィール】 病院や高齢者施設において、高齢者の医療判断に関してのサポートを行っています。特に、高齢者施設では家族が代理意思決定するケースが多いため、家族や医療者を対象に、高齢者に対する共感性(認知的・感情的側面)向上のための学習会を行っています。一般市民向けでは、地域での学習会や高齢者施設の家族会・介護者教室などで、代理意思決定の際の共感性向上に向けたシステム開発(共感的支援パッケージ)に取り組んでいます。高齢者が「笑顔のある健康的な生活」「その人らしい生き生きとした人生」を送れるようなサポート作りは何かについて探究しています。

授業科目名

授業科目名	
老年看護学特論Ⅰ 老年看護で用いる理論、概念について学ぶとともに、老年看護における倫理的課題について探究し、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基礎を養う。	老年看護学特論Ⅱ 高齢者の健康生活上のニーズを知るために必要な、健康と生活機能、家族、介護、環境等の評価方法の理論的基盤を理解し、統合して評価する能力を修得する。
老年看護学特論Ⅲ 高齢者の健康レベルに応じた生活の質を維持、向上するための看護について探求すると共に高齢者に多く見られる健康事象について現状を分析し、看護の開発や評価の方法を探る。	老年看護学特論Ⅳ 個人に最適なサービス調整や他職種との連携を促進し、継続看護を展開するための能力を養う。さらに高齢者への保健医療福祉政策やシステム構築のプロセスを学び、ケアシステム開発能力を養う。老年者の保健福祉政策の現状をグローバルな視点から分析し、今後の方向性を提案できる。
老年看護学特論Ⅴ☆ 老年期に多くみられる症候について、リスクの程度を判断し、適切に対応するための能力を養う。フィジカルアセスメントや検査方法を学び、ハイリスク状況を査定できる能力を修得する。もってこれらが高齢者の質の高い生活を継続するための方法であることを理解する。	老年看護学演習Ⅰ 急性期における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特にせん妄や、一般病棟に入院する認知症高齢者に質の高い看護を提供するための方法を習得する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。臨床場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。
老年看護学演習Ⅱ 在宅における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に終末期看護、退院調整について理解する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。各臨床場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。	老年看護学学習Ⅰ 急性期の病棟に入院している高齢者(特に認知症高齢者)と在宅療養をしている高齢者(特に終末期、あるいは退院調整の必要な高齢者)に対して、研究的視点を持ちながら、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。そして看護スタッフからの相談への対応、スタッフへの教育、保健医療福祉チームとの調整など、現場の改革者としての独自の行動を発展させる能力を修得する。事例報告と高度実践看護師の役割機能についてのレポート作成
老年看護学学習Ⅱ☆ 高齢者の病態生理、薬物療法を踏まえ、フィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、適切な対応を行う能力を修得する。フィジカルアセスメント技法を習得する。事例報告書作成。	老年看護学課題研究 老年看護学実習に関連するテーマを選択し文献研究を行い論文を作成する。
老年看護学特別研究 老年看護学における理論開発、老年者とその家族の健康と生活を支えるアセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を通して、老年者のQOLの向上を探求する。	

実践看護学Ⅳ (精神看護学)

修士論文コース
CNS 実践看護コース

学びの特長

博士前期課程では、専門看護師を目指す方のための実践看護コースと、教育を目指す方のための修士論文コースを開いています。修士生の多くが、精神看護専門看護師となり、臨床で活躍されています。また教育現場で活躍されている方もいます。

濱田 由紀 教授



【プロフィール】「精神障害をもつ人のリカバリーにおけるピアサポートの意味」という研究課題で本学で博士号を取得しました。誰もが精神的な困難からリカバリーできる社会をめざして、看護学の分野でできることを模索しています。これまでにピアサポート、リカバリー、精神科リハビリテーション、精神看護倫理、精神看護教育、心理教育等の研究を行ってきました。主に質的研究方法を指導しています。専門看護師の育成にも力をいれており、東京女子医科大学、松沢病院、長谷川病院、井之頭病院等において経験豊富なCNSによる実習指導を受けることができます。本学の精神看護CNSコースの修士生は40名を超え、さまざまな臨床で活躍しており、現在CNSとして勤務する諸先輩方による講義も数多く用意しています。

修士論文のテーマ

〇うつ病の診断を受けて一般就労を継続している男性の回復の経験

課題研究論文のテーマ

〇看護師を対象としたせん妄教育の開発に向けた文献レビュー

授業科目名

授業科目名	
精神看護学特論Ⅰ	精神看護学特論Ⅱ
精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的視点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たす役割を展望する。	精神分析理論、精神病理学理論、対人関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をアセスメントし、関係を形成し、看護介入を行うための理論的基盤を養う。
精神看護学特論Ⅲ	精神看護学特論Ⅳ
精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者の側から求められる精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。	心身一元論の立場より、ホリスティック・アプローチを基本とするリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実態などについて、実践的レベルで探求する。
精神看護学特論Ⅴ☆	精神看護学演習Ⅰ
精神科薬理学、精神科薬物治療論について学び、精神科薬物療法の効果(作用・副作用)をアセスメントできる能力を養うとともに、服薬心理教育等、薬物療法を受けている患者への看護について学ぶ。	精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係の技術を習得する。
精神看護学演習Ⅱ	精神看護学演習Ⅲ
心理教育、家族心理教育、認知行動療法、薬物療法への援助など精神看護における教育治療的介入技法を演習を通して学習するとともに、身体合併症看護、自殺予防、衝動行為への対処、早期介入、リハビリテーション精神看護など、精神看護の多様な実践について焦点化して学び、新しい援助方法開発の可能性を探求する。	特定の精神保健問題について、さらに専門的な知識と技術を獲得するために、学生は以下の領域からいずれかを選択し、その領域の看護援助方法論について、文献学習とフィールドワークを通して探求する。(領域)救急・急性期看護、慢性・長期入院看護、薬物依存症看護、児童・思春期看護、うつ病看護、身体合併症看護、精神訪問看護・地域精神看護、リエゾン精神看護。
精神看護学実習Ⅰ	精神看護学実習Ⅱ
基礎分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。(1)精神科医療施設におけるCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。(2)各自の関心テーマに基づいて、独自に学習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。	精神科医による精神科診断・治療の実際について、参加観察を通じて学修するとともに、専門看護師の立場で精神科診断・治療について評価し、総合的に患者を支援する能力を養う。精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
精神看護学実習Ⅲ☆	精神看護学実習Ⅳ☆
学生各自が選択する、救急・急性期、慢性期、依存症、リエゾン等の精神看護の専門領域において直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。	基礎分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。
精神看護学課題研究	精神看護学特別研究
精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。	精神看護学特論および演習で得た知見をもとに、精神看護学領域における各自の問題意識を精錬し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して精神看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。

精神看護の学術的、体系的な知識、技術の修得



博士前期課程
実践看護学Ⅳ分野
精神看護学領域
(実践看護コース)修了

大城 恵さん

私はこれまで終末期の状態にある方の看護を長く実践してきました。その中で病気の治療や治癒だけでは解決できない患者・家族の思いや悩みに触れ、「心の看護」に興味を持ち、精神看護専門看護師を目指して大学院へ入学しました。精神科での経験は未経験でしたが、大学院の講義や実習を通して、患者の病気の部分だけではなく、本来のその人自身を知ることの重要性や、精神看護を学術的、体系的に実践する知識や技術を学びました。それと同時に、専門看護師の役割をどのように果たしていくのかということも学びました。今後は、大学院で学んだことを基に実践の経験を積んでいきたいと考えています。

博士前期課程

実践看護学Ⅴ (地域看護学)

修士論文コース

学びの特長

地域看護学は、地域で生活する人々の健康や生活に関わる課題を具体化し、人々が自らその課題を解決し、QOLの維持・向上を支援するための看護実践を探索する学問領域です。

さまざまな対象のニーズアセスメント・評価に基づいた問題解決の方法、多様な専門職や当事者と協働し課題を解決する方法やヘルスプロモーション・健康教育の効果的な展開、セルフケアとグループダイナミクスを活用した支援方法、地域包括ケアシステムや地域ネットワーク構築に関わる理論や実践を探索し、実践の質を高めるための研究能力の修得を目指します。

修士論文のテーマ

- 労働災害の判別分析から再考する産業看護活動の変遷と今後の健康支援における課題
- 単身男性自衛官の肥満に関わる生活習慣と職場のソーシャル・サポートとの関連

清水 洋子 教授

【プロフィール】 多世代が共に暮らせる健康なまちづくりを目指して、公衆衛生看護、在宅看護、地域包括ケア、健康教育に関する教育・研究・実践に取り組んできました。地域で生活するあらゆる健康・生活状態にある個人や家族、集団、地域を対象とした予防を重視した効果的支援の探求と支援の質改善、評価方法の開発、人的資源の育成を目指し、当事者・支援者らと共に実践的研究に取り組んでいます。



課題研究論文のテーマ

- 労働者の余暇の過ごし方が疲労に与える影響についての研究
- 看護師の職場環境への認識とwell-beingの相互作用に関する研究

授業科目名

授業科目名	
地域看護学特論Ⅰ	地域看護学特論Ⅱ
公衆衛生看護、地域看護、在宅ケアの各分野における看護専門職として、個人と家族への専門的な看護ケア、及び集団・地域に対する看護の主要な概念を理解する。さらに、介入方法の変遷と近年の動向、ケアの質の管理、運営方法等の開発に関わる専門的能力を養う。	コミュニティとしての組織・集団の成員における生涯健康とQOLの向上をめざし、地域看護領域で広く用いられている健康政策の技法を修得する。特に、行政看護活動の事業化および政策化のプロセス、および地域と職域を結んだ関連機関とのネットワーク等を構築する能力を養う。
地域看護学特論Ⅲ	地域看護学特論Ⅳ
地域・職域で生活を共有する人々の健康およびQOLの向上のための主要な活動であるヘルスプロモーション・健康教育について、その理論とケアモデル、および効果的な健康教育プログラムの開発方法を修得し、それに基づいた地域看護実践方法を探究する。	地域ケアシステムの構成要素および構築プロセスを分析する。また地域における各種ケアシステムおよび社会資源の現状と課題をアセスメントし、その発展の方向性を探求する。さらに、在宅ケアシステムの構成要素と構築プロセスを分析し、現状と課題の査定、発展の方向性を探求し、効果的なケアシステム開発の能力を養う。
地域看護学特論Ⅴ	地域看護学特論Ⅵ☆
地域看護学をめぐる最新の課題を明確にし、活動を発展させ貢献しうる量的・質的研究方法論の実際を学ぶ。その中で、データ収集技法、面接技法、調査と測定の方法、および介入研究の方法を修得する。	保健師活動における地域アセスメントおよび地域看護診断の基礎となる疫学・高度保健統計学的手法を習得し、地域ケアにおける情報リテラシー、すなわち体験やメディアを通じて得られる大量の情報の中から必要なものを探し出し、地域の健康課題に即して加工し、意思決定を下したり、アウトカムを記述しエビデンスを得るための知識と技能を養う。
地域看護学演習Ⅰ	地域看護学演習Ⅱ
地域看護分野において、関心のあるトピックスを選択し、コミュニティヘルスアセスメントの理論に基づいた現状のアセスメント、課題の明確化、その課題を解決するための活動計画の立案、コミュニティの人々や他職種、他機関との協働、活動マネジメント方略と看護の果たすべき役割について学修する。	行政看護分野において、実際の活動の評価を行うことを通し、行政看護専門看護師に求められる管理運営機能を明確にする。具体的には、行政看護のフィールドにおける活動全般について見直し、対象集団の包括的な健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果から学修を深める。行政看護実践者と関連職種者とのディスカッションを通して活動全般の批判的評価と提言を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる管理運営機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力を養う。
地域看護学実習Ⅰ	地域看護学実習Ⅱ
行政看護分野における専門看護師の役割を認識し、対象者(個人・家族・集団)に対する卓越した看護実践、相談、連携調整、教育、研究、倫理的問題の調整を行う能力を養う。	産業看護の場における直接的な看護活動を通して、その専門性を学ぶとともに、地域専門看護師としての産業看護分野との連携調整を実践により理解する。

実践看護学Ⅵ (小児看護学)

修士論文コース
CNS 実践看護コース

学びの特長

時代や環境の変化に伴い、小児看護の現場では子どもの権利保障や看護の質の向上など、高度専門化の中での新たな課題への対応が求められています。小児看護学では、子どもと家族に関する知識と諸理論を学び、子どもの健康増進と生活の質向上への援助を具現化し、子どもの最善の利益に基づく看護を探索します。本領域は修士論文コースとCNS看護実践コースを開設しており、修了生は教育の場や、小児看護専門看護師として臨床の場で活躍しています。

青木 雅子 教授

【プロフィール】 臨床での子どもたちとの出会いから、子どもが困難な状況にありながらもその子らしく成長・発達し自己構築していく力に関心を持ち、研究・実践を積み重ねてきました。現在は、慢性疾患のある子どもたちへの長期的継続的な支援を中心に、ボディイメージの発達やライフスキルの育成、移行期支援の研究に学際的に取り組んでいます。子どもの最善の利益を追求し、幅広く動的な観点をもって探究していきたいと思います。



修士論文のテーマ

- クローン病をもつ人の思春期～青年期の生活体験
- 小児看護領域の看護師が働き続けられている要因 –SOCに着目して–
- 看護師の子どもの死に関する捉え方 ～亡くなりゆく子どもへの看護の体験から～

課題研究論文のテーマ

- 小児の集中治療において終末期へと変化する子どもに関わった医療者の協働の実際
- 障害児を養育する母親の思いに影響する要因
- 障がいを持つ子どもを育てる親の親役割観のありよう
- 先天性心疾患をもつ学童期の子どもの療養行動に関する文献検討

授業科目名

小児看護学特論Ⅰ	小児看護学特論Ⅱ
小児看護の対象理解のため、子どもの成長・発達や健康増進、家族に関する諸理論を学び、子どもと家族をめぐる現代社会の状況を踏まえ、看護実践における理論・概念の応用とその課題について探求する。	子どもの成長発達および生活を包括的に理解し査定するための技術や技法、方略について理解を深め、子どもの発達段階や状況に応じたアプローチの方法・技法を用いて情報収集・査定し、看護への応用と援助を探索する基礎的能力を養う。
小児看護学特論Ⅲ	小児看護学特論Ⅳ
子どもの最善の利益を保障するための倫理的判断・臨床判断に基づき、子どもと家族に適切に援助する能力を修得することを目的に、小児看護・医療における倫理的諸課題について分析し、状況に応じた援助を探索する。	子どもと家族をとりまく保健・医療・福祉・教育の歴史と現状をふまえ、施設および地域で生活する子どもに関する課題を明確にし、課題改善に向けた方策を包括的な視野から探求する。
小児看護学演習Ⅰ	小児看護学演習Ⅱ
子どもの成長発達と生活およびヘルスアセスメントについて理解し、成長・発達のアセスメント、フィジカルアセスメント、心理社会的アセスメント、家族アセスメントを実践的に学び、子どもと家族を包括的にアセスメントし、子どもと家族の状況に応じた援助を探索するための基礎的能力を養う。	専門看護師の役割として、様々な健康レベルや状況にある子どもと家族への看護実践、看護職への教育・コンサルテーション、関係機関調整、多職種協働、倫理調整、研究、社会資源活用、患者会活動支援の実際について理解を深め、援助方法を考案し実践に応用する基礎的能力を養う。
小児看護学演習Ⅲ☆	小児看護学実習Ⅰ☆
小児期に特有な疾病の病態生理、診断、治療プロセス、症状マネジメントについて、講義・症例検討を通して理解を深め、小児看護学の視点から子どもと家族への包括的なケアを探索するための基礎的知識を学修する。	【小児の診断治療実習】小児期に代表的な疾患の症状の査定、診断・治療プロセスを学び、健康障害のある子どもへの看護実践において必要な医学的臨床判断能力を修得し、医学的臨床判断に基づく看護について探求する。
小児看護学実習Ⅱ☆	小児看護学実習Ⅲ
【小児看護専門看護師実習】特論Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、小児看護専門看護師の役割・機能に関して実践的に理解を深め、高度な看護援助に必要な能力について探求する。	【小児看護専門看護師実習】複雑な健康上の課題のある子どもと家族に対して、より健康でQOLの高い生活を維持・増進できるようにケアとキュアを統合した高度な看護援助を実践する能力を修得する。さらに、小児看護における課題解決に向けた小児看護専門看護師としての役割の開発について考案する。
小児看護学課題研究	小児看護学特別研究
小児看護学特論および演習で習得した知識と技術、および小児看護学実習で得た看護実践に関する問題意識や知見をもとに、文献検討を通して、臨床での看護実践に関する研究課題について知見を得る。	小児看護学特論および演習で修得した知見や問題意識をもとに、小児看護に関する研究課題について研究的にとり組み、研究のプロセスを踏むことにより、基礎的研究能力を修得する。

大学院博士前期課程(実践看護コース)で得たこと



博士前期課程
実践看護学Ⅵ分野
小児看護学領域
(実践看護コース)修了

梅田 朋美さん

私が進学したきっかけは、経験からの実践となっていた自身の看護を学問として見つめなおしたいと思ったことでした。大学院で根拠は何かを確認しながら思考を重ねるようになり、子どもが病気とともに生活していくなかで生じる成長・発達課題を解決し、子どもと家族にとって最善の選択ができるような支援には、看護職が科学的根拠に基づき多角的な視点でアセスメントする能力が重要であることを感じました。事象を抽象的な理論や概念に置き換えることや言語化し相手に伝える力、研究者としての課題探求力や、高度実践看護師としての人間性についても学び成長できたため、この学びを小児看護の質の向上を目指した実践につなげていきたいと考えます。

博士後期課程

主として、看護学の研究を創造的に自立してできる研究開発を担う人材の育成を目指します。

論文指導

博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。



町田 貴絵 教授

【プロフィール】 がんや治療によるストレス・危機状況にある患者および家族を看護する理論の探究、高度がん看護実践を自律して行える人材育成をめざしています。また、長年の臨床経験の中で、チーム連携の不全感を体験し、チーム医療における看護師の役割および多様な他職種連携についての研究を継続しています。すでに開発済みのチーム連携評価尺度を活用して、看護師の能力が、チーム医療へどのような影響をもたらすのかを詳細に明らかにして行きたいと思っています。



小川 久貴子 教授

【プロフィール】 私のライフワークの研究テーマは、「10代妊婦および若年母」です。臨床上、未受診や学業中断などの問題を抱えながら、無事に出産し、その後の育児期において女性が将来を見据えながら主体的に過ごせるように、研究と実践を結びつけながら支援を続けたいと思います。女性の一生の健康を支援するウーマンズヘルスを、多方面から探究していききたいと思います。

- 博士論文**
- 救急初療における高齢者への看護ケア
 - キャリア充実期にある助産師の就業継続における意思のプロセス
 - 病棟勤務経験をもつ訪問看護師の看護実践力を獲得する過程



清水 洋子 教授

【プロフィール】 多世代が共に暮らせる健康なまちづくりを目指して、公衆衛生看護、在宅看護、地域包括ケア、健康教育に関する教育・研究・実践に取り組んできました。地域で生活するあらゆる健康・生活状態にある個人や家族、集団、地域を対象とした予防を重視した効果的支援の探求と支援の質改善、評価方法の開発、人的資源の育成を目指し、当事者・支援者らと共に実践的研究に取り組んでいます。

- 博士論文**
- 自衛官の生活習慣病予防に向けた包括的アプローチの提案



濱田 由紀 教授

【プロフィール】 「精神障害をもつ人のリハビリにおけるピアサポートの意味」という研究課題で本学で博士号を取得しました。精神的な困難からリハビリできる社会をめざして、看護学の分野でできることを模索しています。これまでにピアサポート、精神科リハビリテーション、精神看護倫理、精神看護教育、心理教育等の研究を行ってきました。質的研究方法での研究を指導致します。専門看護師の育成にも力をいれています。



吉武 久美子 教授

【プロフィール】 助産師の臨床経験を経て、倫理学、哲学、合意形成学を専門として、看護実践者向けの合意形成理論を取り入れた倫理研修を実践してきました。研究では「医療現場の意思決定と合意形成」をテーマに、日本の文化に根差した倫理的合意形成に含まれる概念の創出とともに、看護職に求められるファシリテーション技術および教育プログラムの開発を理論と実践の両方から取り組んでいます。

- 博士論文**
- 介護施設で働く中年看護師が他者理解を通して自己を変化させていくプロセス



青木 雅子 教授

【プロフィール】 臨床での子どもたちとの出会いから、子どもが困難な状況にありながらもその子らしく成長・発達し自己構築していく力に関心を持ち、研究・実践を積み重ねてきました。現在は、慢性疾患のある子どもたちへの長期的継続的な支援を中心に、ボディイメージの発達やライフスキルの育成、移行期支援の研究に学際的に取り組んでいます。子どもの最善の利益を追求し、幅広く動的な観点をもって探究していききたいと思います。

- 博士論文**
- 小児病棟における小児看護特有の看護行為の時間量と意味に関する研究:混合研究法による小児病棟の看護管理のあり方の検討

基盤/共通選択科目

<p>心理学特論</p> <p>心理学的諸理論に基づく対象(個人、家族、集団、地域など)に関する的確なアセスメント能力の体系的な学習ならびに看護実践、とくに対象の心理的側面への効果介入(カウンセリングや心理療法を含む)に必要な高度なレベルの諸技法の習得を目指す。</p>	<p>統計学特論</p> <p>看護研究を行う上で有用な統計手法について、理論的背景と具体的な活用方法、結果の解釈の仕方と注意点等について、具体的な研究例を通して学修する。 具体的講義内容:多変量解析の概要と基礎的考え方 重回帰分析・パス解析・共分散分析 ロジスティック回帰分析統計的決定理論 主成分分析と因子分析 尺度開発時に用いる統計と考え方</p>
<p>哲学特論</p> <p>近代哲学および現代哲学における主要な理論や基本概念について学び、近代から現代に至る認識観、人間観の変遷について探求する。またそれをもって人間存在のあり方や他者関係の捉え方について考えを深め、看護実践、看護研究を展開するうえでの哲学的基盤を養う。</p>	<p>倫理学特論</p> <p>代表的な倫理学の理論および生命医学倫理の基本原則を学び、医療や看護における具体的なケースをとおして、生命にかかわる倫理について学修する。周産期医療、エンド・オブ・ライフケア、先端医療等に関連する倫理的問題を取り上げて解決策にむけて検討する。</p>
<p>研究方法特論</p> <p>人間の成長発達に応じた身体の変化や動作、人間の生体反応等について、基本理論や、測定・分析方法を最近の研究の動向を踏まえて探求する。</p>	<p>看護学研究特論</p> <p>学生自身が関心をもつ看護現象を解明するための看護学研究方法の原理や手法を学修する。さらに、看護学研究における研究の厳密さやエビデンスレベルの高い研究知見を生み出すための研究デザインについて学ぶとともに論文のクリティーク能力を養うことによって、看護学研究者として研究の基盤となる能力を習得する。</p>

専門領域科目/看護基礎科学

<p>食看護学特論</p> <p>「食」がもたらす事象を追求する研究方法の開発を新たな課題とし、現代社会が抱える「食」に関するあらゆる問題に対応できるように研究を創造的に発展させることをねらいとする。食看護学が全ての人の食を基盤とする営みのQOLの向上に積極的に貢献する事を基本とする。</p>	<p>看護管理学特論</p> <p>看護管理学における理論や国内外の最近の研究動向を学び、多様な研究デザインの研究論文をクリティークし、研究の能力を養う。看護管理学における課題を明確にし、課題に適切な研究方法を選択し、その方法論の可能性を最大に引き出すとともに、改善、新たな研究方法をも開発することを学ぶ。</p>
<p>看護管理学演習</p> <p>看護管理の先駆的な実践について、既習の理論を活用しながら、その現象を分析できる能力を養う。自らが選択した臨床疑問を看護管理の研究計画立案へとつなげる。</p>	<p>看護職生涯発達学特論</p> <p>看護専門職に要請される多様な能力、すなわち、状況に応じた適切な表現力、倫理的判断力、問題発生予防・問題解決能力の向上にむけて、倫理学、哲学、合意形成学、キャリア開発、継続教育等の学問領域で蓄積された理論をもとに、文献のクリティークを通して、看護職生涯発達学分野の可能性を探求するとともに、研究手法について学ぶ。</p>

専門領域科目/実践看護学

<p>クリティカルケア看護学・がん看護学特論</p> <p>クリティカルケア看護学・がん看護学領域の看護理論および実践を研究的に探求し、文献レビューを通じ、多様な研究論文の特徴、特異性を理解し、具体的な研究方法を学び、独立して研究を行う能力を獲得する。</p>	<p>ウーマンズヘルス特論/演習</p> <p>ウーマンズヘルスとは何か、女性の病気の原因には何があるのか、男性と異なるどのような要因が介在しているか、またはその予防は何かなどを学び、ウーマンズヘルス領域に関連する看護を研究的に探究し、生涯を通じたウーマンズヘルスを目的とした研究を自立して行える能力を養う。</p>
<p>老年看護学特論</p> <p>老年看護学における理論や最近の研究の動向を学び、多様な研究デザインの研究論文のクリティークを通して、クリティークの能力を養うと共に、変化する社会の中で、看護活動の質の向上に寄与しうる看護の方向性を探求し、その研究方法について学ぶ。</p>	<p>老年看護学演習</p> <p>老年看護学における新しい研究方法(混合研究法等)、あるいはエビデンスおよびアウトカム評価に関する研究方法を批判的に分析し厳密性の高い研究デザイン、研究法の開発について探求する。</p>
<p>解釈的精神看護学特論</p> <p>看護は「生・老・病・死」という人間の体験と深く関与しつつ、人々との相互作用を通して実践されるものであり、看護現象の本質には、常に心、並びに心身相関の問題が内在している。本科目では、看護現象における心、並びに心身相関の問題を解釈的スタンスから探求する方法について学び、精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える基礎的能力を養うことを主眼とする。</p>	<p>解釈的精神看護学演習</p> <p>解釈的approachに基づく質的研究データの収集方法(面接法、参加観察法)、分析/解釈の方法(narrative approach, grounded theory approach)、発表方法(論文、口頭)の基礎を習得し、精神看護学領域の研究に応用する方法を演習する。</p>
<p>地域看護学特論</p> <p>公衆衛生看護、地域看護、在宅ケアに関する看護を研究的に探求し、個人・家庭・集団・地域のヘルスプロモーション・健康教育を促進するための研究課題と研究方法について学ぶ。</p>	<p>小児看護学特論</p> <p>小児看護学領域における課題や生じている現象に関連する概念・理論・モデルを探求し、研究課題に取り組むための概念開発や理論生成、研究の方向性、また、関係する研究デザインや研究方法を探究するとともに、小児看護学の質的向上と自立した研究活動に必要な基礎的能力を学ぶ。</p>

東京女子医科大学病院 (東京都新宿区)



1908年の開院以来、質の高い安全な医療の提供と、次代を担う医療人の育成に努めてきました。我が国で初めて診療科を超えた横断的な疾患・臓器別センターを設置しています。約40の診療科があり、さまざまな指定・拠点の認定病院として機能し、社会的な立場でも医療貢献を果たしています。

附属足立医療センター (東京都足立区)



2022年東医療センター(荒川区)が足立区に移転、改称しました。東京都北部(荒川、足立、葛飾区)の地域中核病院。19の診療科と7つの診療支援部門があり、地域、及び近隣の住民の方々の医療と健康サービスの向上を図っています。また、大学附属病院として高度医療を提供しつつ、これからの医療を担う、看護学生、医学生、研修医の育成施設としても機能しています。

附属八千代医療センター (千葉県八千代市)



急性期医療を担う高機能医療施設として、2006年千葉県八千代市に開院しました。外来機能、24時間365日体制の救急医療、小児医療、総合周産期母子医療センターを充実させた最新鋭医療機器を備える高機能病院です。さらに八千代医師会を軸に地域医療機関と連携し、かかりつけ医を支援する新たな地域医療モデルにも取り組んでいます。

主な実習施設一覧

- 東京女子医科大学病院
- 東京女子医科大学東医療センター
- 東京女子医科大学附属八千代医療センター
- 日本医科大学付属病院
- 東京都立松沢病院
- 神奈川県立こども医療センター
- 長谷川病院
- 財団法人井之頭病院
- 白十字訪問看護ステーション
- ファン助産院
- コンフォガーデンクリニック
- 東峯クリニック

学事暦(博士前期課程)(例)

事項		日程	事項		日程
前 期	入学式	4月6日(土)	後 期	後期授業開始	10月1日(火)
	オリエンテーション(1年次のみ) *大学院科目等履修生、博士後期課程合同	4月6日(土)入学式後		学位申請書(修士論文、課題研究論文)提出	1月29日(水)13時まで
	前期授業開始	4月8日(月)		審査委員会の構成委員の決定	2月7日(金)
	履修願/届提出	4月16日(火)17時まで		論文審査と最終試験日 (実践看護コース実践看護学II以外)	2月12日(水)
	特別研究計画書の提出(修士論文コース)	5月8日(水)13時まで		論文審査と最終試験日 (実践看護コース実践看護学IIと修士論文コース)	2月19日(水)
	特別研究計画書の発表会(修士論文コース)	5月15日(水)		再審査論文提出締切日	2月25日(火)13時まで
	特別研究計画書の再提出(修士論文コース)	5月22日(水)		主査による最終審査結果提出日	3月3日(月)
	研究科委員会による特別研究計画書の審査	6月7日(金)		研究科委員会による学位授与の可否判定	3月7日(金)
	課題研究テーマの提出(最終締切日)(注1) (実践看護コース)	6月17日(月)13時まで		学生への学位授与の可否通知	3月10日(月)
	履修内容変更期間(後期開講科目のみ)	9月20日(金)17時まで		特別研究の発表会(修士論文コース)／ 事例報告会(実践看護コース)	3月18日(火)
前期授業終了	9月30日(月)	学位授与式一修了式	3月27日(木)		

(注1): 課題研究テーマについては、4月2日以降随時提出可能とし、提出後直近の研究科委員会(定例)にて課題研究テーマの報告を行うこととする。

国際交流

看護学部では、3つの海外の大学、Hawaii Pacific University (HPU、米国)、Alverno College(アルバーノ大学、米国)、Ewha Womans University(梨花女子大学、韓国)、と双方向の国際交流を行っています。このうち、大学院生はHPUと梨花女子大学との海外研修に参加しております。HPU研修は、アメリカやハワイ特有の疾病について看護学生や看護師の取り組み、アメリカにおける看護教育などの授業を受講します。また、実際の病室の場面が再現された演習室で、バイタルサインを始めいれんや咳など、さまざまな生体反応を示すことができる成人モデルの高性能シミュレータを用いたシミュレーション



HPUにおける授業風景

ン学習に参加します。マグネット・ホスピタルに認定された質の高いケアを誇るクイーン・メディカルセンターの見学、その他、日米間の歴史を学ぶ社会見学など、大変充実したプログラムとなっています。また、韓国のEwhaでは、正規の看護の授業が英語で行われており、本学の学生もその授業に参加し大きな刺激を受けています。これらの海外研修では、本学の学生達も必ず日本の看護事情や文化の紹介を英語で行い、現地の学生と友好を温めあっています。そこには、日本の大学では経験する事ができない学びと経験が待っています。



梨花女子大学(EWHA)研修において日本のラジオ体操のよさをアピールするプレゼン

*廣澤克江看護国際交流助成金：廣澤克江氏(元東京女子医科大学看護短期大学教授)の遺贈による寄附金を資源とした助成金があり、選考委員会による選考に通過した看護学研究科博士前・後期課程学生等の国際学会発表、海外研修、および海外留学の助成に充てられます。

奨学金制度

種類	月額	備考
東京都看護師等修学資金 (博士前期課程のみ)	月額: 25,000~100,000円(貸与・無利子)	修了後、都内施設または指定施設において、引き続き5年以上看護業務に従事する意思がある方が対象。一部または全額の返還免除あり。
日本学生支援機構奨学金	第一種(貸与・無利子) 博士前期課程 50,000円、88,000円より選択(貸与・無利子) 博士後期課程 80,000円、122,000円より選択(貸与・無利子)	返還は日本学生支援機構による ■入学時特別増額貸与(有利子) 第1学年において入学年月を始期として奨学金の貸与を受ける人は、希望により一時金の貸与を受けることができます。 (一時金100,000円/200,000円/300,000円/400,000円/500,000円より選択)
	第二種(貸与・有利子) 50,000円、80,000円、100,000円、 130,000円、150,000円より選択(貸与・無利子)	

主な就職先 (過去3年間調べ)

東京女子医科大学病院 東京女子医科大学附属足立医療センター 東京女子医科大学附属八千代医療センター 札幌医科大学 大阪市立大学 健康科学大学 和洋女子大学	愛育病院 自衛隊中央病院 立川相互病院 国立国際医療センター病院 杏林大学医学部附属病院 聖路加国際病院 東邦大学医療センター大森病院	神奈川県立こども医療センター 玉川病院 東京ベイ浦安市医療センター 東京慈恵会医科大学附属柏病院 千葉大学附属病院 武蔵国分寺公園クリニック
---	---	---

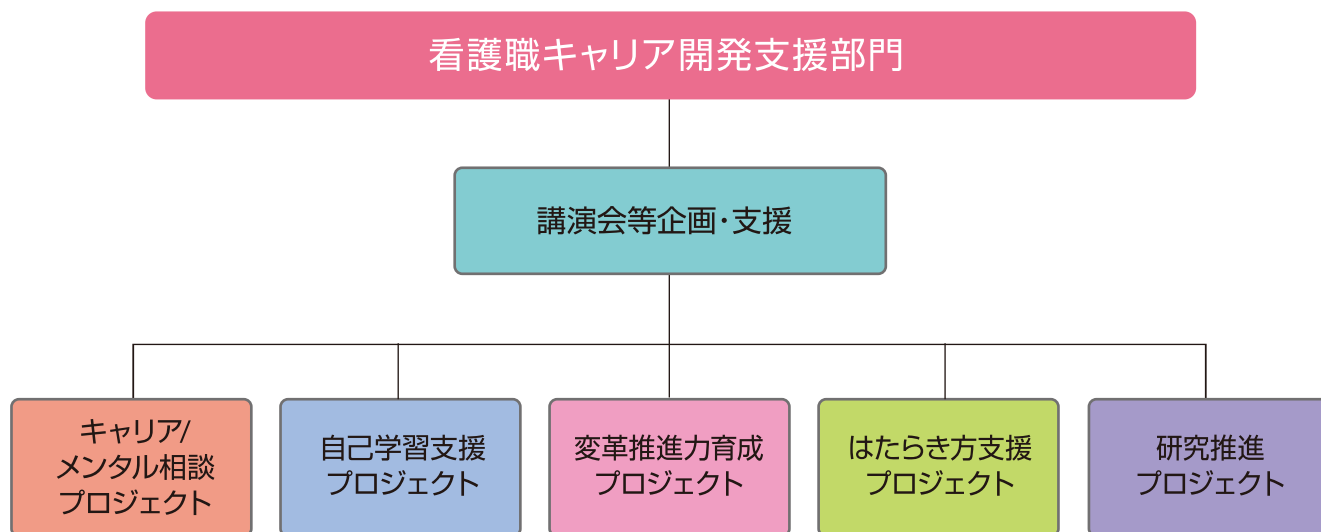
東京女子医科大学の看護職キャリア支援

本学は生涯を通して看護職者が勤務を継続でき、
看護職者が自ら成長できるように、さまざまな支援を行っています。

看護職キャリア開発支援部門

看護職キャリア開発支援部門は看護職のキャリア開発と勤務継続を支援するために、看護部、看護学部、看護専門学校が協働して、看護職のキャリア支援システムの構築を目指して5つのプロジェクトで活動しています。

臨床看護実践を基盤にした専門性の高い看護職者を育て、本学のみならず、日本全国に通用する看護職者を育成する教育施設としての役割を担っています。



●5つのプロジェクト

キャリア/メンタル相談プロジェクト

その人らしい望ましい職業選択やキャリア開発を支援するキャリアカウンセリングと新人看護師や管理者のメンタル面に関するケアを行うプロジェクトです。

- キャリアカウンセリング
- メンタルヘルスカウンセリング

自己学習支援プロジェクト

各病院の院内研修を超えて、本学の看護職が自ら能動的に学習することを支えるプロジェクトです。

※臨床で経験を積みながら、大学院でキャリアアップを目指したり、専門分野を深めたりする事ができます。

- 看護専門領域スキルアップ研修

変革推進力育成プロジェクト

看護実践の質の維持・向上を図るための変革推進力を育成するプロジェクトです。

- クリニカルコーチ育成研修
- 師長の変革推進能力向上支援

はたらき方支援プロジェクト

仕事もプライベートも充実させたい看護職のために様々なはたらき方を支援する制度を検討・発信しています。

- ライフイベント支援(妊娠・出産)
- キャリア支援制度
(育児・介護・国外研修・進学)

研究推進プロジェクト

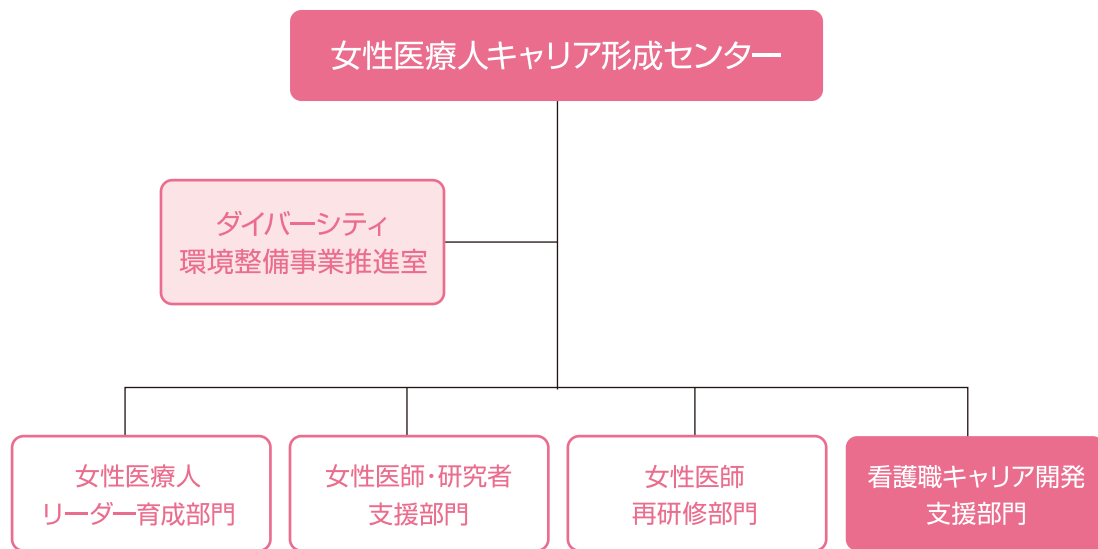
看護部門と看護基礎教育機関(看護学部・看護専門学校)による研究活動の連携を推進し、看護の実践、教育、研究の質の向上を図るプロジェクトです。

- 看護管理者(師長に限定しない)を対象としたセミナー・ワークショップ開催
- 「研究支援者ピアサポートの会」開催

女性医療人キャリア形成センター

「女性医療人キャリア形成センター」は、これまでの「男女共同参画推進局」を母体に新たに「ダイバーシティ環境整備事業推進室」を加え、2017年1月1日付けにて設立されました。女性医師・看護師の勤務継続に対する支援、セーフティネットを提供するだけでなく、医療人としてのキャリア形成とその促進、リーダーシップの育成を通じて、リーダーとしてより良い社会を作るために活動する女性医療人を育成することで、これまでのステージからさらに一段上のステージを目指して参ります。

本学は、2021年度(令和3年度)文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択されました。2015年に「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択され、上位職への積極登用、研究力向上・リーダー育成、ダイバーシティ研究環境整備の3つの柱を中心に事業を行ってまいりましたが、この「先端型」ではより高い目標を掲げて、女性研究者の海外活躍推進などを含めた先端的な取組を行い、更なる女性上位職登用を進めてまいります。



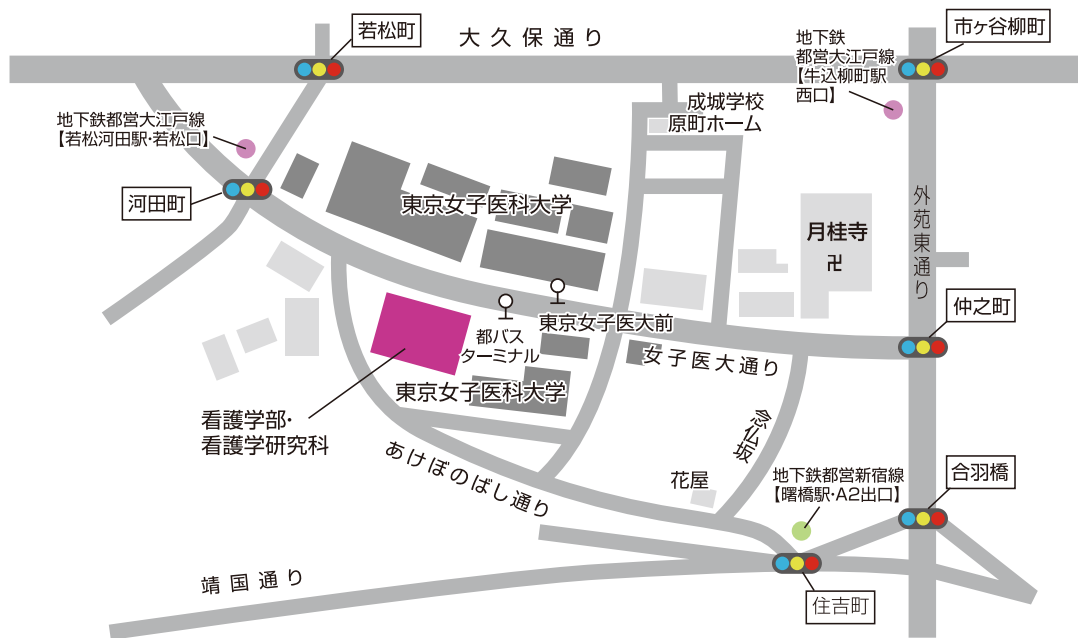
図書館

東京女子医科大学図書館は、本館、足立図書室、八千代医療センター図書室の3つの図書館があり、約17万冊を所蔵しています。図書館では教員と連携し、アクティブラーニングを支援しています。大学院設置に伴い、より看護学関係資料を充実させています。また本学の学生は卒業後も、規定の範囲内で図書館を利用することが可能です。

東京女子医科大学図書館ホームページ

ホームページでは所蔵書籍の検索のほか、東京女子医科大学が生産した教育研究成果(学術論文など)を見ることができます。





〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 TEL.03-3353-8112 (内線31132~31136)

■ 地下鉄利用

- 都営大江戸線牛込柳町駅下車 西口より徒歩約5分
- 都営大江戸線若松河田町駅下車 河田口より徒歩約7分
- 都営新宿線曙橋駅下車 徒歩約10分

■ 都バス利用

- 新宿駅【宿74系統 東京女子医大行】 新宿駅西口～東京女子医大前下車(終点)
- 渋谷駅【早81系統 早大正門行】 渋谷駅東口～四谷三丁目～東京女子医大前下車～早大正門
- 高田馬場駅【高71系統 九段下行】 高田馬場駅前～東京女子医大前下車～市ヶ谷駅～九段下

学校法人 **東京女子医科大学**



☐ <http://www.twmu.ac.jp/> ✉ graduate.bk@twmu.ac.jp